

14 「教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～」(文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 平成 25 年 10 月)に関する記述として適切なものは、次の 1 ～ 5 のうちのどれか。

- 1 自閉症とは、他人との社会的関係の形成の困難さや、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く 特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害である。その特徴は、6 歳ごろに現れ、すぐに問題が顕在化する。中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。
- 2 学習障害とは、基本的には、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書くなどの能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態のことである。原因としては、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定され、視覚障害や聴覚障害、知的障害などの障害や、環境的な要因が直接的な原因とされている。
- 3 情緒障害とは、状況に合わない感情・気分が持続し、不適切な行動が引き起こされ、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続し、学校生活や社会生活に適応できなくなる状態のことである。情緒障害の状態の現れ方は様々であるが、情緒障害のある子供の教育の目的は、心理的な要因による選択性かん黙等などによる適応不全の改善を中心としている。
- 4 言語障害とは、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まず、社会生活上不都合な状態であることをいう。話す、聞く等の言語機能の基礎的事項に発達の遅れや偏りはあるが、聴覚障害のある者、知的発達に遅れのある者は含まれないので、全ての児童・生徒が小・中学校の通常の学級での指導となる。
- 5 注意欠陥多動性障害とは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性を特徴とする障害であり、学習障害や自閉症を併せ有することはないが、社会的な活動や学校生活を営む上で著しい困難を示す状態のことである。通常 7 歳以前に現れ、その状態が継続するとされている。